

さいたま市長 6月臨時記者会見

平成21年6月25日(木曜日)

午後1時30分開会

○ 進 行 お待たせをいたしました。ただいまから臨時記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社の毎日新聞社さん、よろしく願いをいたします。

○ 毎日新聞 よろしく申し上げます。今月幹事社の毎日新聞です。

あした、あさってですね、就任1ヶ月を迎えるわけですが、まず率直な感想と、それから初めての議会に今臨まれているわけですが、議会に対する感想などお聞かせいただきたいと思います。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。お忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。

就任1カ月の感想ということですが、ちょうど1ヶ月前に多くの市民の皆さんのご支援をいただいて当選をさせていただきまして、それから3日後に初登庁ということで、たくさん、多くの市民の皆さんに出迎えをいただいて、また市役所の中ではですね、たくさんの職員の皆さんにお出迎えをいただいて、初登庁させていただいた。これは、大変私自身にとっても大変印象的な1日でもございました。それ以来1ヶ月ということで、日々ですね、毎日のように10分、15分刻みの中でさまざまな問題について決裁をしたり、あるいはたくさんの方々とお目にかかったり、あるいは会合に出席をしたりということで、慌ただしさと同時にですね、日々その責任の重さというものを痛感をしている毎日でもございます。

もともと政治を志した原点が、自分の理想のまちづくりを進めていきたい、そんな思いで政治家を志し、そして今回まさにその夢の一步が実現をできたわけでありますけれども、そういった原点を忘れずに、また市民の皆さんの声をしっかりこの市政に反映していくということですね、しっかり胸に刻みながら、この1ヶ月間やらせていただきました。まだ自分にとって1ヶ月ということで、毎日が慌ただしくてですね、必ずしも思いどおりにもいかない部分、あるいはスケジュール的にもですね、いろんなスケジュールが本当に分刻みで重なっている部分もございまして、なかなか

思うような形でできていないのも現実ではありますけれども、市民の皆さんとの対話、それから職員の皆様との対話、あるいは現場視察ということもですね、少しずつですけれども、4カ所の現場視察にはお邪魔させていただきましたけれども、それから車座集会1回、小中学校にはまだこれから視察に行くということになりますけれども、そういった、とにかく現場へできるだけ行く、それから市民の皆様あるいは職員の皆さんととにかくしっかりと話をしていく。その上でさまざまな市政に当たった課題を解決をしていく。このスタイルをですね、これからはしっかりと踏まえながらやっていきたいというふうに思っております。これが1ヶ月の感想でございます。

それから、今度議会ですね。議会につきましてはですね、これも議会初日、たくさんの市民の皆さんがですね、傍聴席を埋めていただきました。市長のあいさつを聞きにというか、そういった場面で傍聴席がいっぱいになるのは、さいたま市としては恐らく初めてだろうというようなお話も承りましたけど、たくさんの市民の皆さんに傍聴に来ていただきました。そういう意味では、さいたま市議会がより身近になったということで、私自身も大変うれしく思っておりましたけれども、議会が最初の議会スタートしたわけですが、最初にですね、冒頭にいきなり議事の流が随分変わってきたという状況がございまして、まずはいきなり議運、議運でいろいろ何か紛糾したというようなことがあって、まず私の予定をされていたあいさつがですね、何と議案よりも後に来るとということで、大変私自身も驚きましたし、またそれら運営をめぐって、まさに冒頭に議長の不信任案が、動議が提出をされるという、これも恐らく、何というんでしょうかね、大変驚きでございまして、こうした、いきなり2つの驚きからスタートしたわけでございますけれども、そうした中で私自身の所信表明を、現時点でいろいろ皆様にお話しできる部分についてはですね、目いっぱい思い、そして方法等についてはお話をさせていただいたつもりでありますけれども、それらを受けて、私のマニフェストに書かせていただいた議案2件と、それから教育委員会委員と、それから監査委員の委員という、こういったものを特にですね、思い入れを持って提出をさせていただいたわけですが、特にこの人事の扱いについてはいささか私自身も驚いておりまして

ですね、私も県会議員を6年間という期間務めさせていただきましたけれども、やはり首長、人事案件というのは首長ですね、まさに専管事項ということで、私たちはその当時とはとにかく基本的には質問もしてはいけないと。まして、委員会に付託するという事など考えられないというようなもので、人事を否定するという事は、本当に、まさに首長に対するですね、信頼がないということですね、表明するというような部分もあるんだということを言われてまいりましたので、そういう意味ではいきなりですね、議案説明の後、質問を受けるということもございましたし、その後、委員会付託になるということで、異例づくめで大変驚いているところでもあります。

そうした中で、特にそれぞれ議会運営がなされていく中でですね、なかなか正確な情報に基づかない議会運営が一部行われているような感じがしてですね、例えば上申書なるものがですね、あってというようなお話の中で、そういった議会運営が急に変わってしまったりですね、あるいは私が提出をした委員に対してですね、直接携帯電話で連絡をする議員さんがいるとかですね、そういう意味ではちょっと人事権について余りにも、専管事項である人事権について余りにもちょっと介入し過ぎではないかなという印象は非常に持っております。

こうした状況であります、最終的にはですね、基本的には皆さん理解をしてご承認いただけるのではないかとこのように思っておりますので、議会の皆様とも、これからもですね、しっかりと信頼関係がより築けるように、しっかりとコミュニケーションをとりながらやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

- 毎日新聞 ありがとうございました。
 それでは、時間もありませんので、各社どんどん質問してください。
- 東京新聞 今の部分の確認なんです、その上申書なるものということをちょっともうちょっとわかりやすく説明していただきたかった……
- 市長 これは、私も間接的に聞いたことですが、会派の議員団会議の中で、その上申書なるものがあって、それで、そういったものがあるので、この今回の人事案件については継続なり、あるいは委員会付託でしっかりとやら

なくてはいけないというような、ちょっとそういうような……

- 東京新聞 上申書というのは、だれから出ている上申書。
- 市長 それは、私にはわからないので、それはご確認。子どもとしてはですね、そういった上申書みたいなものの存在を間接的に聞いたもんですから、子どもが……
- 東京新聞 それは、委員さんが出しているんですか。
- 市長 いや、それは……
- 東京新聞 わかんないわけ。
- 市長 ええ。それで、一応、ですから委員さんが出ているのかなというふうに思ったので、それぞれ私が出させていただいた委員さんには既に確認済みですが、そういったものは一切出ていないと。あるいは、それ以外の想定されるところからも今のところ出ていないし、当然、通常考え方ですと、上申書が出るとすればですね、当然それは議会ではなくて、市長のほうに直接ですね、出てくるのが本当だろうというふうに思っているんですが、そういったようなことが言われたりですね、ちょっと正確さが十分な情報でない中で、いろいろそれによって議会運営が変わっているというような印象になった。
- 東京新聞 あとは、さっきの直接電話というのは、その議員さんが同意の確認とか同意事項、要は市長は提案をされましたよね。
- 市長 はい。
- 東京新聞 提案された後に、その議員さんが直接電話して、実際に同意があるのかとかですね、そういう確認作業をしているという認識なんですか。
- 市長 いや、その辺は、私も詳しくわかりませんが、ただ、要するにそういうこと自体ですね、本来はそういうことをやって出しているのが当たり前前の話ですよ。今まで県議会ですべて人事案件が出てきて、それがきちっと了解されているかどうかなんていうのはですね、議員がそれぞれに直接電話をして確認をとったなんていうケースはですね、私自身今まで一度も聞いたことがありません。あるいは、過去そういったことがですね、ほかの自治体であったのかどうか、それもわかりませんが、基本的にはそういったことを議員の方が直接その委員になられる方にかけてという行為は極めてですね、異例中の異例ではないかと私自身は考えておりま

す。

- 東京新聞 そういうことはあったことは確認されている。
- 市 長 確認しております。
- 東京新聞 それ提出後ですよ。
- 市 長 そうです。
- 朝日新聞 それは、ご本人からかかってきたという形で……
- 市 長 そうです。あと、かけた方を目の前で見ている方々もいらっしゃるわけですね。
- 読売新聞 上申書が出たという話は、職員から市長のほうに伝えたという……
- 市 長 職員の方ではないです。要するに、そのそれぞれの……
- 読売新聞 委員。
- 市 長 ええ。委員の方から、そういったものが出ているということで、その会議の中ではですね、その上申書とはどういうものかというような確認も行われたんですけど、明確な答えがない中で、そういったことがベースになって、この議事の中身が左右されているという……
- 東京新聞 これは、うわさの話で言うと、その委員さんが、例えば自分はやりたくないとかって言って上申書を出しているとか……
- 市 長 というニュアンスで、その辺私もちょっとはつきりわかりませんが、そういうニュアンスで言っているようなことなんではないでしょうか。
- 東京新聞 要は、委員さんが本来継続を求めるとやりたくないというようなことが出ているんだから、議員団会議の中で継続になるという話になっているという、ちょっと本当かどうかわかんないうわさも飛んでいるという意味ですか。
- 市 長 そういうことです、ええ。ですから、不正確な情報がということで申し上げたんですね。
- 東京新聞 あと、ごめんなさい。先ほど市長の人事案件を否定することは、信頼関係がないということの判断に当たるというふうにおっしゃられましたけど、今の議会の中の一部の会派について、それは市長に対して今の対応というのは信頼関係がない状況になっていると考えられます。
- 市 長 そうですね、そういう意味なのかなと。あるいは、中身についてどういう方針か、新聞のコメントでしか私どもわかりませんが、教育行政に

ついて、あるいはその行政改革についての方向性が見えないというようなことでコメントされているようだけれども、私としては所信表明の中で、その教育に対する考え方あるいは施策について、それから行財政改革についてもお話をさせていただいているという認識を持っておりますので、その辺がちょっと行き違いがあるというか、コミュニケーションが十分でないということなのかもしれませんね。

○ 毎日新聞 すみません、確認ですが、上申書の話と電話の話は、4委員すべてのお話でよろしいでしょうか。

○ 市長 いや、すべての話ではないですね。

○ 毎日新聞 ではなくて。

○ 市長 はい。

○ 朝日新聞 今の関係で、今後9月議会以降、重要案件が続くと思うんですけども、その議会で同意得ないと前に進まないというところで、これからですね、特にそういう会派の議員と清水さんがどう相對していくかというお考えがあれば。

○ 市長 そういう意味では、もちろん市政を運営するに当たりましては、行政側と、やはり議会というのはですね、車の両輪ですので、そういう意味ではさまざまな会派の皆様ともですね、いろんな形でコミュニケーションをとっていくような形をとっていきたいと思っております。

ただ、基本的にはですね、そういった政策的な部分とですね、やはり人事というのは極めて個人情報にかかわる部分であったり、あるいは、そのいい悪いというのはなかなか答えが見出せない、それぞれの立場でやっぱり見方がいろいろあるかと思っておりますので、それについては、ですから責任は市長がとるという形の中で同意をしてくださいということで提出をさせていただくものだとして認識をしておりますので、人事案件についてはですね、もちろん、これまでの形のコミュニケーションは崩さずにですね、やっていくつもりではありますけども、基本的にはそういう中でやっていくということだろうと思っております。

○ 読売新聞 きのも伺ったことですが、一夜明けたきのう僕らが書いた新聞記事が出たということもあって、もう一回確認しておきたいんですが、委員さんのほうのお気持ちという就任意思自体は、そうすると変わらないで

すか。

- 市長 変わっておりません。私も、ここんところ議会のあるたび、毎日のように携帯電話で各委員さんとですね、いろんな情報が飛び交うんですよ。いろんな情報が、その上申書の話にしろ、あるいはいろんな話が飛び交って、正確な情報が私自身もつかめなくなっちゃうぐらいなので、そういう意味では毎日のようにお出しをした方々とは連絡をとり合って、意思の確認は当然しております。
- 東京新聞 残り4人の方ですね、27日が満期(任期満了)になるんですよ。というか、満期だったり、職が失われるということなんですが、例えば監査委員とか教育委員について、例えば監査委員は一応継続して前任者を指名できたりとかというルールがあったりとかすると思うんですが、それとも、そういうふうな措置をとられるのか、残り4席の対応について今決まっていることがあれば教えてください。
- 市長 まず、監査委員についてはですね、基本的な考え方としてはですね、全員がいなくなった場合にはいろいろ業務の支障が来すということでありますので、あれなんですけども、4人中2人は残っておりますので、その中でご対応いただくような方向で考えております。
それから、教育委員につきましては、今6人中、きのうの桐淵博副教育長も含めると4人が、4人でしたよね。
- 事務局 そうですね。
- 市長 確定しておりますので、2人は欠員というですね、状況になるかとは思いますが、議会での議決をですね、より早くお願いするような形でご理解をいただきたいと、いただくよう努めていきたいと。
- 東京新聞 そうすると、監査委員の2人についても教育委員の2人についても、一時的な空席になった上で、できるだけ今議会中には理解を得られる方向ということですか。
- 市長 はい、そういうことです。
- 朝日新聞 あと、教育委員の関係で、その、あくまで一般市民の感覚で言うと、議会のルールを知らないということ、その例えばきのう取材でおっしゃっていますね。こういう趣旨で、こういう人を置きたいというのを本会議で市長がご説明するのも1つの方法かと思うんですけど、今回お見受けすると、

通例、今までどおりのやり方だと。そこに何か市長の、要はその予算の編成があって公開するとか、そういう趣旨があるんですけど、そこは人事案件とはラインを引いていらっしゃるという解釈。

- 市 長 そうですね、やはりその人事についてはですね、非常にその個人情報とかですね、プライバシーの部分と非常にちょっと密接に関係しているので、その辺はやっぱり出せるものと出せないもの、あるいは言うべきことと言うべきではない部分とですね、この辺は気をつけながら注意深く配慮しながらやっていかななくてははいけないだろうというふうに認識をしています。
- 朝日新聞 そうすると、じゃ同意されたら、そこら辺は市長の口から説明されるということですね。
- 市 長 そうですね、はい。
- 埼玉新聞 結果的に議場に来られている傍聴人の方はですね、今議会でその人事案件について何でもめているのかというのは示されませんよね。
- 市 長 ええ。
- 埼玉新聞 こういう事態について、市長、情報公開日本一ということ掲げられていますけども、議会との対応についてでも、市長側からね、その議会の内部的なところも情報公開できるような仕掛けとかというのはやはりされていくべきではないでしょうか。
- 市 長 そうですね、この辺はですね、議会の内部の部分というのは、これは市長ではなくてですね、議会の中でやはり決めて、権限というのはですね、議長さんのほうに当然入りますんで、ただその辺はそういったことも含めて今後ですね、お話を申し上げる機会があれば、そういったこともさせていただきたいとは思っておりますけど。
- 埼玉新聞 例えばその議案説明の部分で、議案書に書かれたとおりということではなくて、そこから一步踏み出したような形で、これこれこういう理由でこの方を推したいというような説明があっても、やはりそれは、やはり傍聴人の方への説明ということにもなるかと思うんですね。その辺についてはどうでしょう。
- 市 長 そうですね、ある一定のルールのもとにですね、そういった対応することはいいことだと思いますが、それらについては現状としては明確なルールがございませんので、それらがあれば、それに基づいて対応していくこと

は別にやぶさかではありません。

- 東京新聞 市長ご自身が、その議会の中での信頼関係という部分について改善していくというには、半ば相手側がちょっと人事権に介入するとかという部分を改善していくためには何が必要だと思われますか。
- 市 長 基本的には、政策的な部分についてはですね、お互いのいろんな考え方、信念、あるいはそれらが策定をされてきた経緯等々もあると思いますので、それぞれお互いにお互いの考え方を伝え合っていくと、これは基本的には議会の中でというのが、これは基本的な考え方だろうと思いますが、それ議会の場合以外でもですね、そういった部分で要請を受ければですね、私どもとしても話をさせていただくようなことはあるかと思いますが、基本的には、でもそういったことは議会でね、やるというのが1つは理由だろうと思っています。
- 朝日新聞 それと、議会と、(熊谷俊人)千葉市長がですね、当選されて、ある意味で都市間競争的にですね、比較される対象になると思うんですけども、清水市長さんは、熊谷(俊人)市長をどう見ていらっしゃるかということと、どういうふうにかラーの違いを出していこうかというところ。
- 市 長 実を言うと、(熊谷俊人)千葉市長さん、選挙戦でちょっとあれしたぐらいで、実を言うとよくわからない状況があります。ただ、近いうちに何かちょっとお目にかかるような機会がありそうなので、そのときにまた情報交換をさせていただいてというふうには思っていますけども。
- 朝日新聞 刺激を受ける部分というのはありますか。
- 市 長 そうですね、やっぱり、向こうのが全然若いですけどね、そういう意味では比較のお互い若いほうの首長、市長であるかと思っていますので、そういう意味でいろんな意味で共通点もありますし、また違ったところもあるかと思っていますので、その中で情報交換をしていきたいと思っていますし、お互いのさいたま市民、千葉市民のためにいろんなことをですね、いろいろ情報交換をさせていただきたいというふうには思っています。
- 東京新聞 2つ教えていただきたいんですが、1ヶ月終えられてまだ短い時間で難しいかと思うんですが、自己採点されて100点で何点かということと、その理由と、もう一点はたくさん、市の政策って多いと思うんですけど、いろいろ報告、さっき10分、15分という刻みの中で、どのぐらい市の

政策という把握が自分の中でできていらっしゃるかという。

- 市長 そうですね、そういう意味では50点ぐらいでしょうかね。理由は、やはり非常に、まだその時間の使い方という意味です、主体的な使い方の部分で、やはりまだ十分に、その使い方をうまく自分なりに配分をして使うというような形ができていないかなという部分と、やはりそのカラーを出すための、そのいろいろ考えを整理をしたり、いろんな方と会ったり、いろんなそういった部分についての構築をしていく上での時間帯がまだ正直言って十分とれていない部分ございますので、そういった部分で言うともやはり50%ぐらいだろうというふうに思っています。

それから、もう一個何でしたっけ。

- 東京新聞 政策をいろいろ掲げられて……
- 市長 そうですね、そういう意味では、そうですね、率直なところ、やっぱりそれも半分いっているかどうかということだろうと思います。
- 朝日新聞 それと、ちょっと副市長の関係なんですけど、きのう、おとといの答弁です、3人置かれて、民間人の方は、この前記者会見で話したように参与か何か登用して上げていくということなんですけど、そのほかの2人のうち1人は9月議会に行政出身の方を入れると、もう一人はどういうふうにお考えですかね。

- 市長 基本、その9月の議会に向けてですね、今検討しているのは2人の行政経験のある方を副市長にということで、1人ということではなくて最低1人と。1人ないし2人をできたら提案、提出したいと。

- 朝日新聞 9月に。

- 市長 というふうには考えています。

- 朝日新聞 それは、2人、その市職員の方もいれば、官僚とか、いろいろ行政出身って幅広いと思うんですけど、清水市長の中でどういうふうにお考えですか。

- 市長 そうですね。その辺は、今のところまだですね、どういうふうな方々ということの想定は、まだ十分にできておりませんので、広く現役の職員もいらっしゃるかもしれないし、OBの方もいらっしゃるかもしれないし、あるいは中央省庁のご出身の方もいらっしゃるかもしれませんし、県出身の方もいらっしゃるかもしれないし、その辺はまだ、いわゆる行政とい

う仕事にそれなりの経験、あるいは見識を持っている方ということで、という大きなくくりで2人という意味です。

- 朝日新聞 その関係で単純に言うそうですね、前市長のときは2人で、今回3人ということで、1人分ですね、人数で言えないんだけど、余計に置くことでね、お金的なものとかを含めてあるんだけど、そこら辺は。
- 市 長 一応当面はですね、その3人体制やっている間については、恐らくははっきりとしたものではありませんけど、特別秘書は、今のところはすぐに置く考えはありません。
- 毎日新聞 廃止する考えもないんですか。
- 市 長 現状としては、その辺まだ十分にですね、ある一定の期間、秘書として務めさせていただきながら、必要な役職というか、必要な人材というのは見えてくると思いますので、現状としては、それを廃止するというのも考えていません。
- 読売新聞 ごめんなさい、その件と違うけどいい。さっき記者クラブのほうに7月1日付の人事が出てきていて、くらし応援室長、改めてそのくらし応援室の人数、規模、概要とか、あと市長の考えているイメージというものを。
- 市 長 くらし応援室につきましては、先日前話をさせていただきました所信表明的あいさつの中でお話をさせていただきましたように、区役所改革のですね、まず第一歩というふうに私自身は位置づけておまして、これで完結するものでも、100点がとれるものでもないという認識のもとに、まずは市民の皆さんが区役所に来て、区役所でたらい回しにされない、そういう箇所をですね、しっかりとつくって、職員の方々にしっかりと市民の声を、あるいは市民の相談事をきちんと聞いていただく、そういった窓口を区長直轄でつくろうというものでございまして、それが今後それらを進めている中で、権限の問題、あるいは人材の問題、あるいは事務分掌の問題、いろんな課題も出てくると思います。それは、運用レベルで解決できる部分と、あときちっと制度を変えていかなければいけない部分と、いろんな面が出てくるかと思しますので、まずはそれをスタートさせて、区長の直轄のもとに区長が十分状況を把握しながら、そういったことにまず取り組んでいくと。それをやりながら、いろんな調整を行っていかう、あるいはそういった権限の問題、区役所改革の問題にもフィードバックをし

ていこうと、こんなふうに考えています。

- 読売新聞 何だかたらい回し防止室というような感じが.....
- 市長 そうですね。イメージとしては、そんなイメージです。
- 朝日新聞 減給の関係、議会でも述べられていたんですけども、具体的にはまだ減給されていないと思うんですけど、どれぐらいの幅でね、例えば9月議会をめどに出したいとか、そこら辺で.....
- 市長 ちょっと最初ごめん.....
- 朝日新聞 どのぐらいの減給幅で、何月議会までに、その減給.....
- 市長 ああ、私の給与。
- 朝日新聞 はい、給与ですね、そこら辺のお考えというのは。
- 市長 給与につきましては、ちょっと自分なりのいろんな思いもありますが、一つは特別職への影響等々もありますので、その辺はタイミングと、あと金額については、それらも考慮しながら決めていきたいと思っておりますが、目安としては、ちょっとどのタイミングかはっきりとは申し上げられません、年度内には出ささせていただきたいというふうに思っております。
- 朝日新聞 特別職というのは、副市長も含めてということによろしいわけですか。
- 市長 そうですね。議会の中でも答弁させていただいておりますが、副市長等の特別職についてもですね、相応の対応をお願いすることになると思います。
- 時事通信 先日ですね、大阪府の橋下(徹)知事と横浜の中田(宏)市長が会談で、地方自治体の長として、国政でどこの政党を応援していくかというのを決めようじゃないかとか、そういう話し合いを持ったというのがきょうもニュースでやっていましたけれども、それに清水市長ご自身が加わるお考えはあるのかどうか。
- 市長 現状としてはですね、まだ中身についてどういう中身なのかが、私もちょっとニュースで、ちょこっとインターネットで見た程度ですので、わからないので具体的なコメントはできませんけれども、ので、ちょっと中身を精査した上でということになると思いますけど。
- 時事通信 そういう呼びかけが今の時点で清水市長のもとには。
- 市長 現状としてはないです。
- 時事通信 ないですか。

- 市長 はい。
- 時事通信 当選直後には、自分を応援してくださった民主党の議員さんをやっぱり自分としては応援したいということをおっしゃっていましたが、そのお気持ちに今のところ変わりがありますか。
- 市長 基本的にはですね、今回の市長選に当たっては民主党の県連、それから民主党無所属の会という会派の皆さん、それからみどりの風という会派の皆さんと政策協議をしていただいて、それに合意に基づいて応援をいただいたと、その大きなメーンのコネプトというか、考え方は、地方分権で、地方主権という考え方であると思っています。それらを共有ができたので、応援を、要するにそれらの方々からもいただいて当選をさせていただいたと。私自身も、その部分についてはですね、今回の衆議院選挙でもぜひ実現をしていただきたいと思う政策の一つでございますので、前回市長選においてそういった応援をいただいた方々をベースにですね、そういった地方分権、地方主権という、そういったものをですね、強力に推進をしていただける方については、何らかの要請があればその都度判断をして、応援をさせていただくという考え方は持っているということです。
- 毎日新聞 その関連ですが、選挙お強い方だと思うんですけど、渡辺喜美(衆議院議員)さんも熱烈に支援をしてくださったと思うんですけども、応援に行かれる予定というのはありますか。
- 市長 今のところは具体的に来ておりませんので、それについてもですね、今のところは何とも……一つは、やっぱり具体的にいついつとか、あれがないとですね、これはスケジュールの関係もありますし、ただもちろん渡辺(喜美衆議院議員)先生とはですね、そういう運動体として日本の夜明けというですね、運動体に私自身も参加をさせていただいているメンバーでもあり、理念、考え方、志の部分では大変共有している部分が多いと思いますので、要請があれば当然そういう形にはなるというふうに思いますけど、もちろん具体的な日程の問題だとか、いろんな問題がありますので、その都度ということになると思います。
- 毎日新聞 もう一点なんですけど、今ちょっと報道でも出ていると思うんですけども、渡辺喜美(衆議院議員)さんへのダミー献金の問題が上がっていますが、それに対してはどういうふうにお思いになってますか。

- 市長 これも、ここのところ議会への対応等で、私自身も余りニュースを、実を言うとよく見ていないんですが、ただ見ている範囲の中でお答えをしますと、基本的にはやはり渡辺先生、以前小沢(一郎民主党代表代行)代表のときにもおっしゃっていましたが、やはりきっちりと説明責任を果たしていただいて、きちんとそれを問題ないということであれば、それを説明していただくという形でやって、国民の皆さんにご理解をいただくということをやすべきだと、やってくださいと、こういうことですね。
- 朝日新聞 サッカープラザの関係なんですけど、近く検討委員会を設けられるということなんですけども、市民は公募で選ぶなりですね、どういうふうに選んだ市民を加えようと考えていらっしゃるでしょうか。
- 市長 現状ではですね、この間も議会の中で申し上げましたとおり一応学識経験者を2名、それから市民の方々を8名、それぞれ程度ですけど、2名程度、8名程度ということで想定をしております。現状としては、なかなか公募という時間が、委員についてはですね、十分ちょっととれないだろうというようなこともありますので、比較的広く市民のご意見を述べていただけるような方々、あるいはこれまでそういった公募の中で市政とかかわってこられた方々等々をベースにしながらですね、選任をしていきたいというふうに思っています。
- 共同通信 東国原(英夫宮崎県)知事、最近話題です。彼の発言と、それから任期半ばで国政に転出の話が出ていることについて、市長、その辺は。
- 市長 そうですね、やはり基本的にはですね、首長という役職は大変責任も重い役職ですから、やはり基本的には任期をしっかり全うしていただくということが大変重要であろうと私は思っております。
- 埼玉新聞 先ほど自己採点50点ということを言われましたけど、施策の面で1カ月間、例えば車座集会とかというのは市長の思うような、思い描いていたようなものができてきているんでしょうか。
- 市長 まだ4回でしたすかね、4回ぐらいだと思いましたがすけども、イメージしていたものがそのままかということ、もう少し改良していったほうがいい点もいろいろあると思っています。これは、やりながら私自身も変えていかなくてはいけないと思っておりますけれども、ただ直接職員の方々、市民の皆さんからお話を聞く機会というのは大変貴重でもあり、私自身も

貴重でもあり、その後やはり職員の皆さんからですね、間接的にいろいろ私どものほうにも耳に入ってまいりますけど、やはりやっていただいているということで非常に新鮮な感覚を持っていただいたり、あるいはやる気という意味で、そういった部分を促しているというようなことも伺いますので、もちろん内容の密度も上げていきたいと思います。それらについても、今順次ホームページ等でですね、公開をしていくということも考えておりますし、やっておりますし、やり方については順次、また幾つか場所等々によっても変わってくると思いますので、それらもやりながらですね、よりいいものにつくり上げていきたいなというふうに思っています。

- 埼玉新聞 すみません、1点なんですけども、就任前と就任後で大きく感じられたギャップなどはありますか。
- 市 長 そうですね。それは、市政に対するイメージとしてということですか。
- 埼玉新聞 ええ。もしくは、その職員とか市役所内部の機構とか。
- 市 長 そうですね、私自身の印象ではですね、職員の皆さんも私自身のマニフェストをよく読んでくださっていたりですね、あるいは先般ごあいさつさせていただいた所信表明等をですね、大変よく読んでいただいて、その実現に向けていろいろ検討していただき始めていたり、その中でさまざまなご提案などもですね、言ってきてくださる方もいらっしゃいます。そういう意味では、想像以上にと言ったら失礼になるかもしれませんが、大変やる気のある職員の方が多いという感じはしています。
- 埼玉新聞 大きなギャップは感じられていないと。
- 市 長 そうですね、そう思いますけど。
- 読売新聞 先ほどの給料減額の関係とちょっと絡みますけど、以前の会見でも伺った94万円のボーナス(期末手当)、あれどうしますか。
- 市 長 今検討してまして、ちょっといろいろ考えている、実を言うとまだ最中なんですけど、というのは、やはり公職選挙法との絡みがあって壁が大きいんですね。福祉施設とかというと、今度福祉施設、要するに市内の福祉施設だと公職選挙にひっかかってくるということで、今のところ国際機関か日本全体の機関で、比較的余りさいたま市とは関係がないところみたいな、そんなイメージの場所しか、寄附という形ではできないので、寄附という形以外でも何か、できればやっぱりさいたま市のためにですね、使

っていただけるような方法が一番とればというふうに思っていますので、ちょっともう少しお時間いただいてですね、やり方という言い方は変ですけど、還元できる、お返しができる、そのさいたま市のお金としていただいたものですから、できるだけさいたま市のほうにですね、還元できるような形がとればいいなと思っております。

- 読売新聞 簡単に差し引きで、次のボーナス(期末手当)94万円減らすということ
はできないですか。
- 市長 そういうことは.....
- 事務局 条例になっちゃいますんで。
- 市長 そうですね。
- 読売新聞 条例でそういうのを出すとか。
- 市長 そういうことも含めて、じゃ検討していきたいと.....
- 読売新聞 というふうに思うんですけど、単純に。
- 市長 そのときだけの条例ということ.....
- 事務局 ええ、そうですね。ですから.....
- 読売新聞 何かの方法として。
- 市長 ああ、なるほど。そういう形ができるのであれば、そういう形でお返し
をしたいと思います。
- 読売新聞 そうですか。僕が言うのもあれなんですけどね。
- 毎日新聞 よろしいでしょうか。では、お時間が来ましたので、これで終了させて
いただきます。ありがとうございました。
- 進 行 以上をもちまして、臨時記者会見を終了させていただきます。大変あり
がとうございました。

午後 2時10分閉会